

社会福祉法人中央会 平成25年度事業報告

【行動方針】

1. ユニットケアの充実

ユニットケアを理解し利用者様一人ひとり個別のケアプランを作成することはできたが、共通認識やチームワークのもと実行できたかについては課題が残っている。リーダー職員に対しては、自立した職務の遂行を目標にユニットリーダー会の継続と、外部講師を招いてのリーダーシップ研修会を1年を通して実施してきた。リーダーとしての責任感の向上と取り組みが見られてきたが、今後も努力を要する。

2. 各委員会の活動推進

率先した委員会活動が増え、施設の活性化と質の向上につながっている。一方、委員全員が事業所の代表であるという自覚のもとで活動を行うまでには至っていない。

3. 各種会議の質の向上

会議での積極的な発言を促し、各自の役割を積極的に担いPDCAサイクルによる改善のステップアップが図れる会議が行えるように、ファシリテーター役の多いリーダー職員に会議のスキルを上げるための研修を実施した。会議の質の向上は見られている。

4. 金沢医療技術専門学校の看護実習生受け入れ

- ① 特別養護老人ホームでの老年看護学実習
- ② 3年生 延べ48人
- ③ 5月～12月 2～3人/日

実習の受け入れはスムーズに行えた。学生や学校からの評判も良かった。

また、利用者様・家族様からも若い学生とのふれあいができると好評だった。職員にも刺激になり相乗効果が見られた。

5. 地域交流・家族交流の推進

- ① 地域包括支援センターありまつ主催の地域サロン「あいこの会」の連携
- ② 「介護フェスティバル」を開催し作品展示、介護よろず相談等
- ③ 地域交流室の活用・・・子供会・町内会の役員会、介護関連図書・DVDの貸し出し
- ④ 消防訓練に町会長・班長さん等の地域の方と地域包括支援センター職員の参

加、訓練後は消防署の方と意見交換、協力体制について話し合いを行う

- ⑤ 伏見川清掃、市一斉清掃、市防災訓練への職員参加。
- ⑥ 西泉井出神社の春祭り・御輿祭、文化まつり、社会体育大会、校下盆踊り等にご利用者の見学や参加を行う
- ⑦ お遊戯会での保育園児と交流
- ⑧ 「あいこ夏祭り」を開催し家族、地域の方を招待
- ⑨ 地域婦人部ボランティアの定期訪問
- ⑩ 家族会を開催し、「口から食事が摂れなくなってきたら」というテーマで説明会を行った。

6. 各事業所評価

【デイサービス】

- (1) . その日の利用者様一人ひとりと個別の関わりをもつ
個別の関わりはできていたと思うが、もう少しゆとりを持った関わりが必要だった。
- (2) . 利用者様にとって、安全・安楽・安心な身体介護を行う
身体介護のスキル向上に努めてきたが、まだ不十分な部分も多く今後も課題としていく。

【ショートステイ】

- (1) . サービスの質、職員間のチームワーク連携の向上を図るためコミュニケーションの充実を図る
伝達事項が細部まで伝わらないことが多くあり、業務に入る前に申し送りノートや記録を見るという基本的な事を徹底し申し送りの見直しを行った結果、以前より改善できた。職員間のチームワークについてはまだ声かけが不十分である。
- (2) . 職員個々が責任感と自主性を持つ
責任所在を明確にし意識向上に努めた結果、責任感の向上が見られた。自主性については、指示待ちでできていない職員と積極的な言動ができていない職員に分かれている。専門職としての意識向上が必要である。
- (3) . 入居者様の24時間シートを活用し、統一したケアを提供する。
24時間シート活用に至っていない、早急に仕上げていく。

【小規模多機能】

- (1) . 転倒、誤嚥、離脱 ゼロ
2件の事故があった。ミーティングで原因究明をするとともに引き続き次年度の目標とし反省で得たことを生かしていく。
- (2) . その日の利用者様全員と関わる
目標を意識した結果、職員全員からほぼ毎日達成できたとの報告があった。利用者様に自分を見てくれているとの安心感を提供できたと思われる。

(3) . その日の利用者様の思いを傾聴し、その日に実現する

傾聴はできていたがその日に実現するに関しては 50%程度の達成であった。その日に叶えることが困難な事は別として、もう少し目標を意識した行動もとれたのではないかという思いが残る結果となった。

頑張ってきたことも多くあり、利用者様を理解することの大切さは身に付いたと思われる。次年度はより深く一人ひとりの方と関わり、私たちが行える支援について考えていきたいと思う。

【特養】

(1) . 看取りケアの実施

ステージに応じた看取りカンファレンスの開催により他職種の連携のもとご家族様の意向に沿った看取りケアが実践できた。看取り対象者のいないユニット職員、新人職員の中には理解不足の職員も見られたため、今後も委員会を中心に看取りケアに関して職員が不安なく関わっていけるように、マニュアルの整備、フォロー体制の強化が必要である。

(2) . ユニット間での入居者様へのサービスのバラツキをなくす

職員間で声をかけ合い他ユニットにも積極的にフォローに入れていた。介護力向上委員会を立ち上げ根拠あるケアの実践、個別ケアの充実を全職員で意識し取り組めた。

【看護部】

(1) . 入居者様の24時間シートを作成し統一した看護を提供する

特養入居者様の24Hシートは完成し目標達成できた。今後はどのような形式で活用していけばよいか、介護職員とも相談していく。より効果的な活用に向け調整していく。

(2) . 看取りに関する勉強会を月に1回行い知識を深めると共に情報を共有する

看取り対象者の細やかな状態報告や事例検討、研修報告等を行い、情報を共有することができた。看取りの希望も増えているため、事例検討を行い統一した看護の提供が必要である。

【給食】

新しい行事食メニューと新しい提供スタイルを取り入れ、利用者様に楽しんで頂ける食事を提供する

個々の形態の多様化に（対応できる範囲で）対応できた。新しい試み（寿司・弁当など）も行ったが、提案があつてのものだったので給食部としては企画力不足だった。

7. 経営基盤の強化・確立

【数値目標】

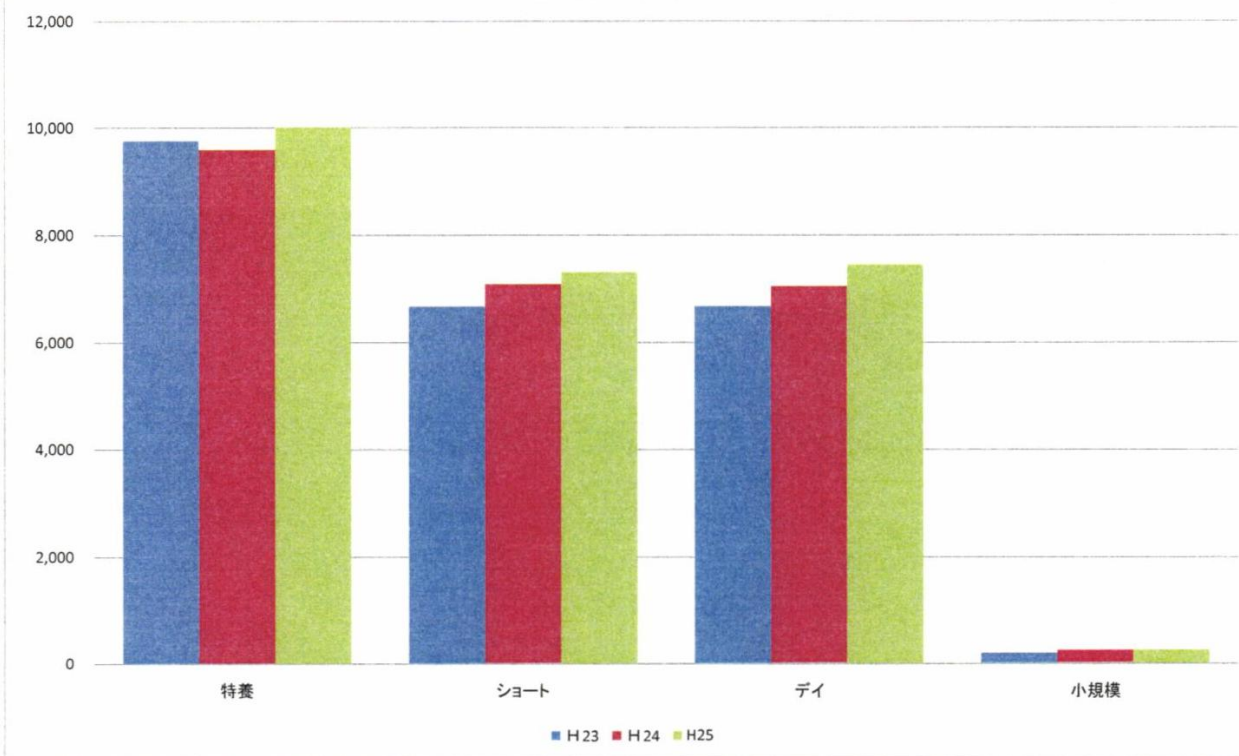
特別養護老人ホーム	稼働率95%（28名/日）
ショートステイ	稼働率100%（20名/日）
デイサービス	稼働率72%（25名/日）
小規模多機能型居宅介護	稼働率80%（登録20名/月）

【活動状況】

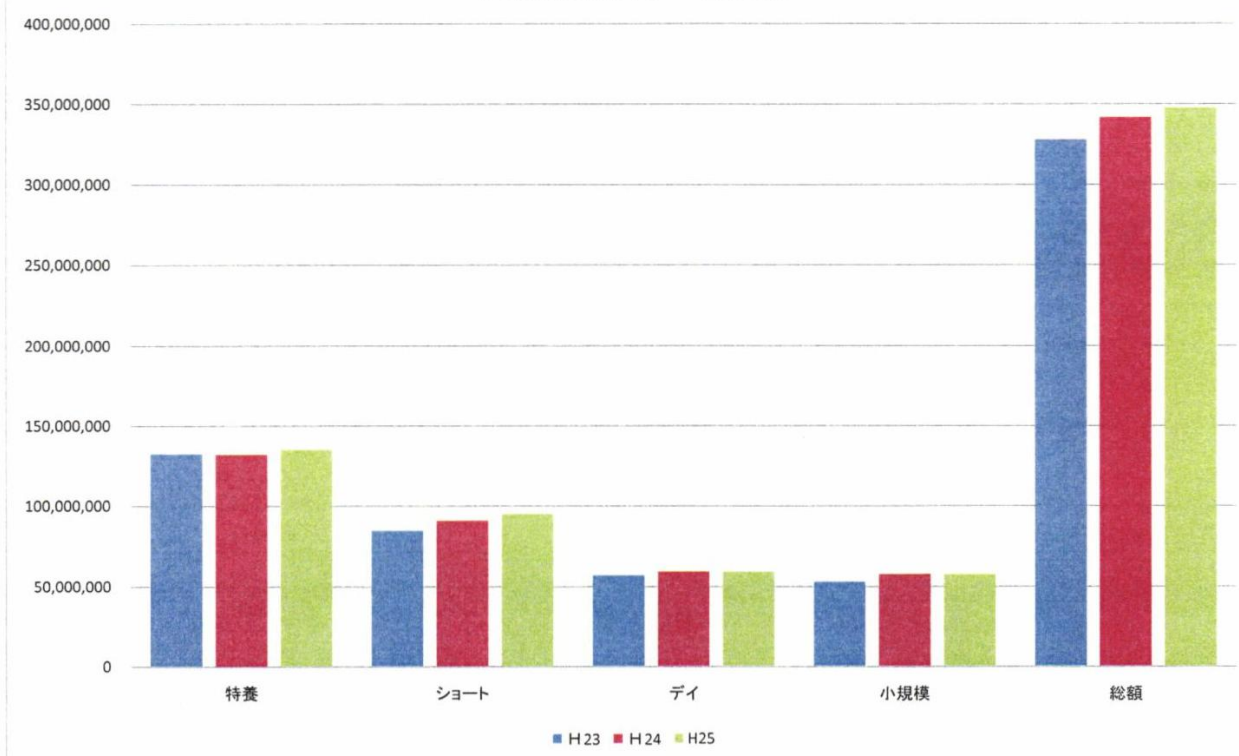
事業所	人数	平成23年度	平成24年度	平成25年度
特養 (定員29人)	入居者延べ数/年	9,762	9,600	10,009
	平均入居者数/日	26.7	26.3	27.4
	稼働率	92%	91%	94%
ショート (定員20人)	入居者延べ数/年	6,682	7,099	7,315
	平均入居者数/日	18.2	19.5	20
	稼働率	92%	97%	100%
デイサービス (定員35人)	入居者延べ数/年	6,680	7,060	7,452
	平均入居者数/日	21.2	22.8	23.9
	稼働率	61%	65%	68%
小規模 (定員25人)	契約者延べ数/年	212	258	276
	平均契約者数	17.6	21.5	23
	稼働率	71%	86%	92%

- ① 利用者数は各事業所ともに増えている。
- ② 数値目標は、デイサービス以外は目標達成できた。
- ③ 特養については、施設での看取り(平穏死)を希望される家族様が増え、また職員も看取りケアができるように成長したため、入院が減り稼働率が上がった。
- ④ ショートステイ・デイサービス・小規模多機能については外部事業者や地域に対して認知度が上がってきているためと考える。

事業所別利用者数 (単位:人)



事業所別収入 (単位:円)



8. 特別養護老人ホーム入退所（定員29名）

年度	区分 月	新規入所者				退所者					
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭復 帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
平成 25 年 度	4	1	1		2		1		1		2
	5	1			1					1	1
	6										
	7	3			3			1	2		3
	8			1	1					1	1
	9	1			1		2				2
	10	1		1	2					1	1
	11	1			1					1	1
	12	1			1		1			1	2
	1	1			1						
	2										
	3	4			4				1	3	4
計	14	1	2	17		4	1	4	8	17	

9. 救急車搬送状況

年度	月	件数	部署	状況
平成 25 年 度	4	3	特養	敗血症、腹膜炎
			特養	脳出血
			特養	痙攣
	5	1	小規模多機能	胸部不快感
	7	1	特養	呼吸状態悪化
	8	1	小規模多機能	頭部外傷
	11	1	特養	脳梗塞
12	1	特養	心不全・肺炎	
合計件数		8		

10. 事故発生状況

[H25年4月1日 ~ H26年3月31日]

部署	件数	状況	
特養	3	右大腿部転子部骨折	ベッド上徘徊しベッド柵とベッド足元の間から布団に包った状態で床に転落
		左膝骨折	打撲防止のクッションなども外しベッド上徘徊しベッド柵に打撲
		左大腿部頸部骨折	ベッド横のポータブルトイレに座っていて転落
ショートステイ	2	腰椎圧迫骨折	自力でベッドから歩行器につかまり立ちをしたときにふらつき転倒
		離設疑い	被害妄想の認知症で居室不在となる。離設を疑い近隣捜索したが、他利用者の部屋に鍵をかけて隠れているところを発見
小規模	2	頭部外傷	ベッドから起き上がろうとしてベッド柵の隙間から転落
		頭部外傷	送迎車を降りる際、職員が眼を放した隙にスロープ途中で車椅子ブレーキを外されたため勝手に動き出し車いすごと転倒

11. 職員の採用・退職の状況

年度	職種別	施設長	事務員	直接処遇職員			栄養士	療理学士	療法士	宿直	合計	
				相談員	生活	職介員						看護員
平成25年度	採用	0	(1)	0	15 (10)	1	16 (10)	0	0	0	0	16 (11)
	退職	0	0	1	8 (7)	0	9 (7)	0	0	0	0	9 (7)
	3月末職員数	1	1 (2)	3	40 (18)	6	49 (18)	1	(3)	(1)	(2)	52 (26)

()はパート等非常勤人数

12. 施設職員の研修状況

[H25年4月1日 ~ H26年3月31日]

	回数	内容・状況
新人研修	3回 (20人)	OJT研修へ移行 (チューター制)
職場外研修	49回 (延べ109人)	県社会福祉協議会、福祉総合研修センター等の研修会に参加
職場内研修	12回 (延べ266人)	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養管理と食事形態 ・事故防止のための注意点 ・人権擁護・虐待防止について ・プライバシー保護とは ・身体拘束排除について ・緊急時の対応 (看護・介護の連携) ・感染症の理解と対応 ・地域の社会資源の把握及び連携につて ・ターミナルケア及びゆうけあ相河の考え方 ・倫理法令遵守 ・非常災害時の対応 ・褥瘡対策について
外部講師研修会	52回 (延べ723人)	接遇力Brush Up研修 ・リーダーシップ力Brush Up研修